



浜松観光ボランティアガイドの会

事業部主催「県民の日記念ウォーク・古戦場コースを歩く」



8月26日午前9時より大人27名、子供5名が参加の下、「県民の日記念ウォーク『古戦場コース』を歩く」が開催されました。

今日も朝から快晴で、おてんとう様も元気一杯温めてくれています。“とにかく暑い”。前回の「家康公家臣団の屋敷跡を歩く」では資料が不足して困ったので、今回は少し多めに用意してのスタンバイ。

待つこと数分、徐々にお客さんが集まり始めました。スタートの順番は東・西・北・中ブロックと決定。最初のグループ7人が出発と順調に行きますが、北ブロックの番になると女性一人。「一人でもいいから行ってくれ」と言うので出発。女性のお客さん曰く、「ラッキー」。お客さん一人にガイド3人の対応ですから。



出発前

スタート地点から浜松東照宮へ。東照宮では最近鳥居に徳川宗家19代の徳川家広氏書による扁額が掛かっています。浜松東照宮は明治維新後、最後の浜松城代・井上延陵により造営されました。更に、家康と秀吉の銅像では頭陀寺の松下家に秀吉が奉公していた時、連れていかれた引間城でのイガグリの逸話を話す。そして、灯籠のハート形の説明で猪目（魔除け）を話すに興味を示し、最後は御神木（ユーカーの木）の説明。

続いて、奥山線跡を通り亀山トンネルへ。“何と涼しいのでしょうか、ずっとここにいたい”。

普濟寺に到着。門・橋・北山稲荷・家康のお手植えの松等を説明。奥山線跡に戻り犀ヶ崖資料館を目指し歩きます。

犀ヶ崖資料館ではビデオ鑑賞です。館内のクーラーは極楽、極楽。心地よさはまさに天国。ここで予期せぬ事態が起きました。ビデオが終了した時に二人の御婦人に声を掛けられました。「東照宮の秀吉像の手に持っているイガグリのことをもう一度聞かせほしい」と。「もう一度?」。実は今月18日、浜松城発掘現場を見に行き話しかけてきたのがこの御婦人方でした。外に出て説明を始めようとする、御婦人の入っていたグループの人達及びガイドの人達までも聞きたいとのこと。“ビックリ”です。グループの人達の前で秀吉のイガグリの逸話を話しまし



普濟寺前にて

た。この逸話は実は、磯田先生の受け売りです。読売新聞に連載されているコラム「古今をちこち」の記事です。その記事に浜松東照宮のことが書かれています。最近そのコラムがまとめられて本が出版されました。「日本史の内幕」という本ですので参考に見て下さい。説明を終えると今度は、御婦人方はそのグループを離れ私について行くと言います。グループの許可を貰い浜松城に向います。

浜松城で説明をしていると田村事業部長がやって来て「もう皆解散したよ」の一言。やっちゃいました。全てこの暑さのせいでしょうか？
北ブロック 松本初義



犀ヶ崖資料館にて

リトアニアの大学女声合唱団を案内して

静岡大学OBグリーンクラブとリトアニアから来たヴィリニウス大学の女声合唱団 17 名（引率者を含む）が 8 月 20 日に浜松城を訪問しました。日本を訪れたのは初めてで、しかも学生さんたちは二十歳前後と、何にでも興味のあるお年頃。

お城の中をゆっくり案内する予定が、日本庭園で思っていた以上に時間を割いてしまいました。庭園を歩いていると未だ熟していない緑色のイガ付きの栗を拾い、これは何かと聞かれ、栗と答え、よくお菓子に使われていると説明しても理解してもらえませんでした。私が昔暮らしていたフランスでは秋から冬にかけて焼き栗を道端で売っていますし、マロンケーキは何度か食べたことがあるので、恐らくヨーロッパでも北方に位置しているリトアニアには栗の木が生息していない、もしくはイガ付きの栗を見たことが無いかのどちらかではないかと思えます。また、竹の美しさに魅了された学生さんから、これは何ですかと聞かれました。竹は冬季が寒冷だったり、降水量の少ないヨーロッパでは、自然では生息しないと聞いたことがありましたので、初めて見る竹に目を輝かせながら「リトアニアに持って帰りたい」と言っていました。



日本庭園にて



天守門にて

天守に着いた頃にはガイド予定時間の半分か過ぎていましたが、地下井戸、具足、家紋、家康の像の説明をしました。中でも具足は実物を見たのは初めてだったためか、大変興味を持ってもらうことが出来ました。2階を案内している途中、3階で記念撮影を撮りたいとの申し出があり、急遽3階へ。そこから見えるアクトタワーのモチーフについてのクイズをしましたが、残念ながら回答してもらえず、ヒントを出す「ハーモニカ!」と答えてもらって一安心。2階に戻り、刀、鉄砲、当世具足の案内をし、最後は石垣及び天守門の鏡石を説明してガイドを終了しました。

バスに乗り込む前に一曲歌を歌ってほしいとお願いしたところ、快く引き受けて頂き、綺麗なハーモニーを聞くことが出来ました。御一行は午後1時半から出演される楽器博物館でのコンサートに向かわれました。多忙なスケジュールの合間を縫ってのひと時を楽しく過ごされたのではないかと思います。

広報部 吉山万智子（西ブロック）

家族で楽しむ! 浜松まつり会館 フェスタ2018

会館内では、オリジナル凧作りや様々な形の貝殻を使ってのクラフトワークが行われ、そして御殿屋台へ乗車しての記念撮影は、当会南ブロック会員の誘導で滞りなく親子でパチリ。

屋外では移動動物園によるくみて!さわって!エサやり体験があり、ミニチュアホースのキキとララが、子供達から差し出される人参スティックやパンの耳を器用に食べる仕草で人気の的。風紋広場でのオリジナル凧あげ、大凧あげ体験では、雲一つない空に大小の凧が天高くあがり、普段のまつり会館では味わえないお楽しみが満載のフェスタとなりました。



エサやり体験

8月26日浜松まつり会館で開催されたフェスタは、台風一過の晴天に恵まれ、1,385名もの大勢の家族連れでにぎわいました。



クラフトワークの作成

広報部 藤田礼子（中ブロック）

古代人の「お墓」を見て歩く記 —浜松市の古墳 現地説明会に参加して—

古墳文化時代は、歴史年表で見ると3世紀前半から7世紀末といわれています。最も古い前方後円墳は、3世紀中ほどの「卑弥呼」の墓との説もある箸墓(はしはか)古墳であり、最も大きな前方後円墳は墳丘の長さ525mの大仙古墳(仁徳天皇陵)は5世紀前期～中期に構築されています。又、古墳時代末期(7世紀末～8世紀初期)には極彩色に彩られた円墳の高松塚古墳・キドラ古墳が、築造されました。

今年になり、浜松市文化財課の主催による古墳の見学会が4回たて続けにありましたので、その様子を構築年代の古い古墳から紹介します。

◇北岡大塚古墳(4世紀前半、前方後円墳) —市指定史跡—北区引佐町井伊谷

古墳時代になり、100年足らずで浜松の地(井伊谷)に最初に築かれた古墳で、その形式が東海から関東にかけて多く見られる前方後円墳です。長さ48.5m、高さ3.2mの墳丘の周囲には周濠があります。被葬者は地元有力者か?

又、7世紀前期に築造された直径10mの横穴石室がある円墳があり、この地一帯が何世紀にも亘り埋葬施設が構築された場所と思われます。

◇馬場平(ばんばのひら)古墳(4世紀中期、前方後円墳) —市指定史跡—北区引佐町井伊谷

1934年、後円部が掘削工事により埋葬施設が露出した内部から画文帯神獣鏡など多数の貴重な副葬品が採集された。墳丘の長さは47.5m、高さ4.6mで被葬者は北岡大塚古墳と同様で地元有力者か?

馬場平古墳の近くを金指実相寺へと続く往時の街道「鳳来寺街道」が通っています。

◇光明山古墳(5世紀中期、前方後円墳) —県指定史跡—天竜区山東

2018年、浜松市文化財課が光明山古墳を初めて発掘調査した。その規模は墳丘の長さ82m、高さ9.6mで市内では最も大きな古墳です。後円部は二段に構築されていて、近畿地方の大型前方後円墳に似ていることから、被葬者は倭王権との強い関係がうかがわれる。又、葺石もよく残っていて円筒埴輪など多くの出土がありました。

すぐそばに、国内最大級の木造大黒様が祀られている光明寺(光明護国禅寺)がありますが、元々は、光明山頂に行基上人が創建した古刹で、戦国期には「光明城」となり今川・武田・徳川がしのぎを削った城として知られています。



光明山古墳

◇半田山古墳群(6世紀後半～7世紀前半 円墳) 東区半田山一丁目

東区半田山から中区住吉にかけて三方原台地東縁部一帯には500基を超える古墳があります。その古墳は直径10mで地表面から数十cm掘り下げ、奥行き5m位の埋葬施設である石室を設け、高さ2mの墳丘にした横穴式の円墳です。

被葬者は、この地域の有力な農民一族などが埋葬されていました。

◇家康公が生きた時代から遡る事1000年以上の古墳を訪ね、古代人に思いを馳せる事も一興かと……。

中ブロック 清水正之

◆お知らせ◆

QRコードで、お客様おもてなし

QRコードは2次元バーコードで、モザイク状の四角いドットで作られています。カメラで、それを基に情報を読み取り、ホームページ閲覧や商品管理など多方面に利用されています。特にスマートフォン(スマホ)やタブレットの普及に伴い、それからの情報利用が広くなり、情報の主役的存在も占める場合もあり、観光や旅行の案内提供にも広く利用される傾向です。

そのため、その試みとして、駅での案内やプライベートで、スマホなど持参のお客様に、パンフレットや地図、ホームページの取り込みを勧めたところ、概して喜んでQRコードからスマホなどで情報を閲覧したり、保存して下さったりしています。今後、若い方に加え、最近はらくらくスマホなど年配者向けの普及に伴い、多くの方がそれに向けていくものと考えます。まずは、駅での案内などにQRコード付き観光案内ファイル(テスト版/約60コード)を置き、お客様に取り込んで利用していただくことから始めてはと考えています。



会員の交流広場

千葉・東京の寺社へ一人旅

7月中旬に千葉・東京方面へ3泊4日の一人旅をしました。茨城県の鹿島神宮、千葉県の香取神宮・佐原の大祭・成田山新勝寺、東京の靖国神社・江戸東京博物館など、古代から現代まで駆け抜けました。鹿島神宮の巨大樹林と香取神宮参道の燈籠群は立派で、さすが両神宮とも2,600年前の創建の貫録でした。

「お江戸見たけりゃ佐原へござれ」と謳われ、小江戸と言われた香取市の佐原の大祭は、大利根川の水運により巨大な財力を得た佐原の町衆が、江戸文化を取り込み更に凌駕しようと、5mの大人形を載せた9mの山車を独特の祭囃子で曳き回すものです。夏祭りは10台、10月の秋祭りは14台で、近年ユネスコの世界遺産になりました。御祭神なのに「山姥」の流し目がとても艶めかしく印象的でした。又、日本3大と数えられる祭囃子は民謡・歌謡曲なんでも軽々と組み入れる奔放で逞しく、いかにも町衆が祭りを立ち上げ、溶け込んでいました。

成田山名物うなぎを食べました。身びいきかも知れないが、うなぎはやっぱり浜松が一番だ。必見は両国の江戸東京博物館。ボランティアガイド女史の話しっぷりが愉快で、予定時間を大幅に超えても「いいのよ、いいのよ」と続けてくれる女史の表情が段々美しく輝いてくるように感じました。

今度の旅は暑かったが、それ以上に楽しかったです。

西ブロック 高山 功



香取神宮の参道

8月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3箇所他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体			
*	クラブツーリズム	6回	231名
*	なるほど日本！旅サーチ	2回	17名
4日	土	富士宮聖母幼稚園卒園小学生	47名
		吉原聖母幼稚園卒園小学生	38名
5日	日	FK会	21名
		幸クラブ	13名
7日	火	放課後児童クラブさぎの宮	18名
		早稲田中学高等学校	25名
19日	日	(有)どりーむ	38名
		京都府立医科大学	44名
		小林衛様一行	17名
20日	月	塔短歌会	16名

20日	月	静岡大学OBグリークラブ	31名
		(リトアニアの大学女声合唱団17名を含む)	
		放課後等デイサービスひまわり	12名
26日	日	県民の日記念ウォーク	50名
29日	水	宮城県中小企業家同友会	22名
	*	上記以外に8名以下の6団体	30名

《犀ヶ崖資料館》

団体入場なし

《浜松まつり会館》

17日	金	大都市労務担当部長会議	46名
26日	日	浜松まつり会館フェスタ2018	1,385名
	*	日曜対応(5、12、19、26日)	146名

はままつ案内人会報 198号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/



はままつ案内人

検索 🔍

(会の新メールアドレスを8月1日より運用しています)